

■（１９）授業も連載もつかみと組み立て！

三男の通う公立中学校の学校公開日で、参観した社会科授業のキーワードは「百円ショップ」だった。なぜ中国で商品を作るのか。企業が海外に出て行く意味は？グローバル化はいいことだけなのか。けだるそうな表情だった生徒らも徐々に引き込まれていく。

そんな「つかみ」と「組み立て」は、新聞の特に連載などの長文記事では重要だ。読み始めた人に次の段落も読みたいと思ってもらわないといけないからだ。次、その次と最後まで興味を持ってもらうには工夫が必要だ。通常は冒頭に象徴的なエピソードを書き、そこから謎解きのように展開していく。書き出しでわざと、刺激的な表現や「おや？何？」と疑問を抱かせる言い回しをする場合もある。最後まで読めば、そのエピソードを紹介したかなどが理解できるような構成にしている。「天声人語」だって例外ではない。

さて、冒頭の授業で教諭が「国境を越えるのは人・モノ・カネ・情報です。うち情報を運ぶのは何かな」と尋ねた。生徒たちの答えは「テレビ」「ネット」…。思わず教室の後ろから手を挙げて大声でこう言いたかった。「何より新聞です！」（山）